はじめに

学校臨床総合教育研究センター長・教育研究創発機構長　市　川　伸　一
（2005年10月より在任）

在外研究のために渡欧した苅谷剛彦教授の後を受け、2005年10月からセンター長（兼教育研究創発機構長）を務めさせていただいています。ただし、本センターは2006年３月末日をもって改組され、2005年４月からは「学校教育高度化センター」として生まれ変わることになっています。ここであらためて、本センターの歩みを振り返ってみたいと思います。

本センターは、1997年４月に設立されましたが、施設や制度が整備され、本格的な活動が始まったのは、その年の11月26日の開設記念式典以降と言ってよいかと思われます。初代センター長近藤邦夫教授を中心に、研究開発部門と相談援助部門を擁する、ユニークな組織として本センターは構想されました。教授３名、客員教授３名（うち一人は外国人）、助手１名という、形の上では小さな組織ですが、これに、学内の研究員、学外の協力研究員を加えて大きなネットワークを形成し、専門領域を越えた学際的で実践的な教育研究を集中的に展開するというのがその趣旨でした。そのため、研究開発部門の２教授は、２～３年程度のプロジェクト期間の流動ポストとしたのです。

1997年度から99年度までの３年間は、藤田英典教授、佐藤学教授が、第１期プロジェクトの「いじめ問題の解明と解決策の探求」を担当しました。1998年４月には、相談援助部門に臨床心理学の亀口憲治教授を招聘し、９月に亀口教授を中心に、教育学部附属中等教育学校にセンター分室として、「ほっと・ルーム」というカウンセリングルームを開設しました。さらに、この年度に、センター年報『ネットワーク』が創刊されています（刊行は、1999年９月）。

2000年度から2002年度までは、第２期プロジェクトとして、「『学力低下』の実態解明と改善方策に関する実践的研究」が行われ、私（市川）と志水宏吉助教授が担当しました。この年に、センター長として佐藤一子教授が就任しています。また、この年には、附属学校のセンター分室の中に、「学習相談室」（のちに「がんばルーム」）が開設され、私（市川）が大学院生らとともに、学習上のつまずきを支援する実践研究の場とするとともに、附属の教官との接点としてきました。2002年４月からは、センター長が汐見稔幸教授になっています。

2003年度から2005年度までは、秋田喜代美教授、恒吉僚子助教授が担当する第３期プロジェクト「学習環境改善のための学校支援システムの比較調査および開発研究」が実施されました。ただし、この時期には、センター内外にめまぐるしい動きが起こります。まず、2002年度後期に５年プロジェクトとして採択された「21世紀ＣＯＥプログラム」が、2003年度からは「基礎学力研究開発センター」として実質的な活動を開始し、センタープロジェクトと密接な関係をもちながら研究する体制となりました。一方では、2004年度に本大学院研究科に「臨床心理学コース」の設置が認められ、亀口教授が配置換えになるとともに、センターの相談援助部門は廃止されることになりました。

こうして、センターの組織や活動内容が大きく変化する中、2004年度に苅谷剛彦センター長が就任してまもなく、「教育研究創発機構」を設置することになりました。この機構は、本セ

ンター、ＣＯＥ基礎学力研究開発センター、先端発達研究センター（2004年４月発足）の３センター（のちに、「人文社会科学研究プロジェクト」が加わる）を中心に、本研究科内外にあるさまざまな分野の研究をつなぐための組織です。具体的には、コースの壁や、既存の領域の壁を越えた研究の交流や発展の場として、公開研究会や新たな研究プロジェクトを行っていくことになります。

こうした中、センター分室としての「ほっと・ルーム」「がんばルーム」のあり方については、その意向を附属学校にうかがって来ましたが、附属が主体となって運営していくとの結論が得られたため、附属学校側に移管し、要請に応じて本研究科のスタッフが支援をしていくということになりました。2005年10月からは、冒頭に述べたように私（市川）が苅谷センター長の在任期間の後任を務めることになりましたが、このころ、さらに大きな動きがありました。それは、概算要求として出されていた「学校教育高度化専攻」と「学校教育高度化センター」が通る見通しとなったことです。それにより、センターの教授ポストはこの高度化専攻に移行した上で、高度化センター教授を併任するという形になります。

1997年から続いてきた、本センターの活動は、こうしてこの３月にいったん幕を閉じることとなります。しかし、その間に行われた３つのプロジェクト、他大学や学校との連携、分室での実践の試みなどは、大きな経験、成果として生かされていくものと思われます。本センターの研究活動を支えてくださった多くの方々に感謝するとともに、2006年４月に発足する「学校教育高度化センター」にも、引き続きご支援を賜れることを心よりお願い申し上げます。